

巻 頭 言

人間関係研究センターが南山短期大学から南山大学に移管されて3年が経過し、センター紀要の『人間関係研究』も第2号を発刊する運びとなりました。2001年12月に発刊した創刊号は、短大時代のセンターで活躍された伊藤雅子先生・星野欣生先生の退職記念号にさせていただいた関係で、ほぼ2年間をかけての編集という変則的な形になってしまいました。本号からは年に1号ずつを発刊するという年報スタイルを明確にし、センターにおける研究活動・実践活動の状況について積極的に社会に向けて発信するとともに、その成果を社会に還元してまいります。本号の内容は、春と秋に開催された公開講演会の報告と「人間関係トレーニング・体験学習の応用」に関する特集がふたつの柱となっております。

春の講演会は、後に映画化もされた『デットマン・ウォーキング』の著者として有名なSr.ヘレン・プレジャンを迎えて、「正義」の名のもとに行われている死刑制度の問題を改めて考え直す機会としました。当日は、被害者のサポートなどの実践活動に裏打ちされた広い視野からのお話をうかがったうえで、フロアとの間で活発な議論が交わされました。秋の講演会は、遺伝子という最先端分野の研究者として著名な村上和雄先生をお招きして、「大自然の見える力」のテーマでお話をいただきました。最先端科学研究のリーダーである先生の語られた、人知では解明不可能な「サムシング・グレート」の存在に、多くの参加者が共感した次第です。いずれの報告も当日の雰囲気や空気を彷彿とさせるものですから、参加されなかった方々も一読されれば、当日の参加者と同じだけのものを共有できると確信しております。

本号の特集は、安藤論文を除いて、教育・学校現場に関するものと広義の医療現場に関するものに分けられます。いずれの分野のものも、人間関係トレーニングや体験学習の理論的基礎を踏まえたうえでの応用として、執筆者各自の継続的な実践活動に裏打ちされた報告・提言を行うものであり、特にこうした活動に実際に取り組んでいる方々に明確な指針を示す内容のものとなっております。また、経営組織論の観点から体験学習の活用可能性について論じた安藤論文は、先行業績の乏しいなかで執筆されたチャレンジングな内容であり、体験学習の場に新たな可能性を拓くものとして、先駆的な業績であると言ってよいでしょう。

是非御一読のうえ、忌憚のない御批判・御教示をいただければ幸いです。

南山大学人間関係研究センター長 丸 山 雅 夫

